

根岸英二展

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷は、森田恒友を始め多くの画家を輩出したまちで、埼玉県下初の洋画団体「坂東洋画会」が結成されたまちです。この坂東洋画会は、東京美術学校（現東京藝大）を卒業し、熊谷中学校（現熊谷高校）の美術教諭として赴任した大久保喜一を中心に結成されました。その坂東洋画会の中心人物の一人に根岸英二が挙げられます。

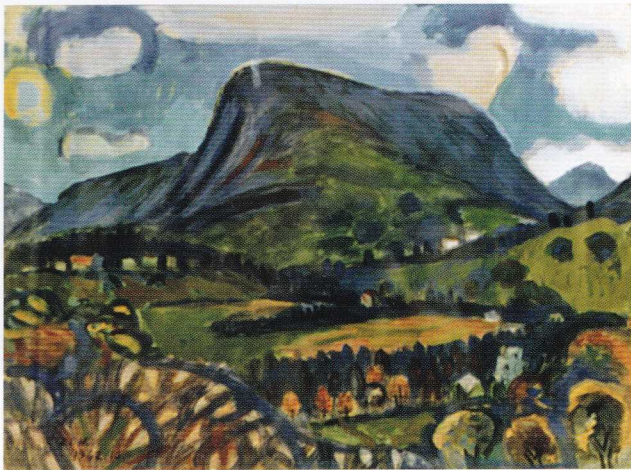
氏は、明治30年に中條村大塚（現熊谷市大塚）で高橋家の四男として生まれました。明治43年に熊谷尋常小学校を卒業後、大正3年に小山正太郎、浅井忠らが結成した明治美術会を前身とする太平洋画会の洋画研究所に入り、大正7年に同所を卒業後は、熊谷男子尋常高等小学校の教員として赴任しました。そして大正8年の坂東洋画会の結成時に、上岡良や松崎元治らとともに参加し、画力を研鑽しました。

その後は主に小、中、高等学校の美術教諭

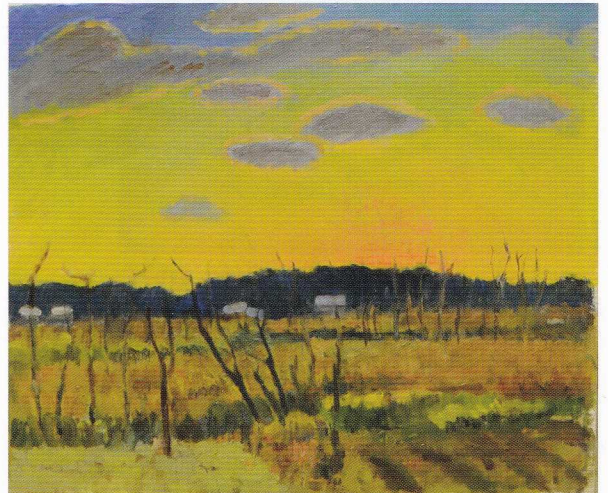
として後進を指導、その間の大正9年に結婚し、根岸家に養子として入りました。昭和15年には青島日本総領事館へ出向、青島日本高等女学校教諭となりました。終戦後の昭和21年には大阪府立池田中学校の教諭となりますが、同年に退職し熊谷へ戻り、昭和24年、絵画材料店アルス画房を開きました。

熊谷時代は坂東洋画会を前身とする朱麦会に参加し、また埼玉県美術展覧会や県北美術展に第1回から作品を出品、スケッチ旅行で渡欧するなど精力的に活動し、多くの作品を発表しました。

今回展では、所蔵品を中心に氏の作品を展覧いたします。生涯の中で70年近く絵筆を握り、作品を制作することに情熱を傾けた画家・根岸英二が遺した作品をご覧ください。対象に対する真摯な姿勢と温かな筆致から生まれる色彩感覚の豊かさを感じていただければ幸いです。



小浅間 水彩画 昭和37年



夕やけ 油彩画 昭和50年頃

会期：平成27年12月15日（火）～平成28年3月6日（日）

[休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、12/24、12/29～1/3、1/8、1/12、2/5、2/12、3/4]

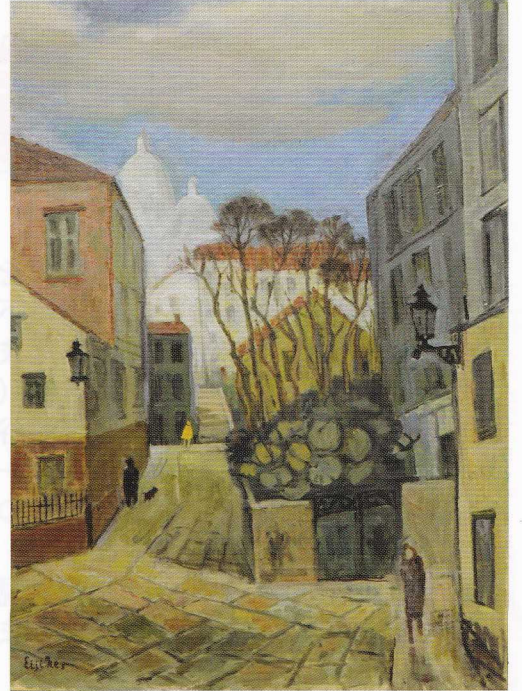
会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時

入場無料



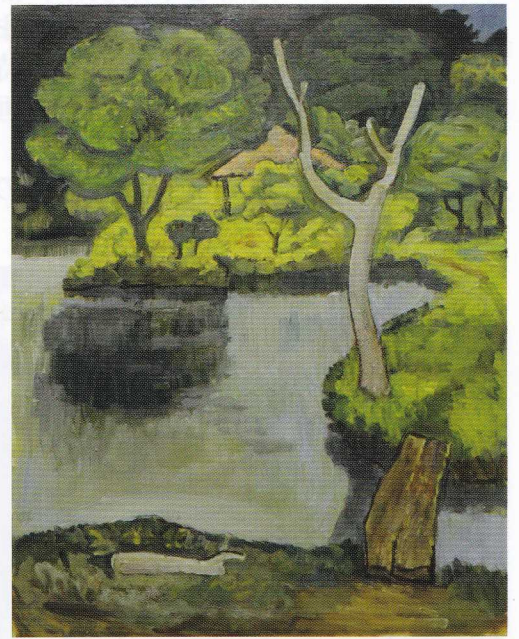
平塚雪景 油彩画 昭和51年



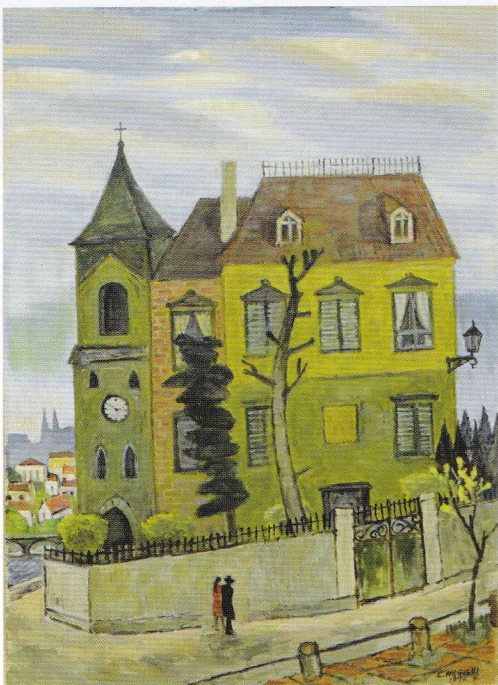
モンマルトルの街角 油彩画



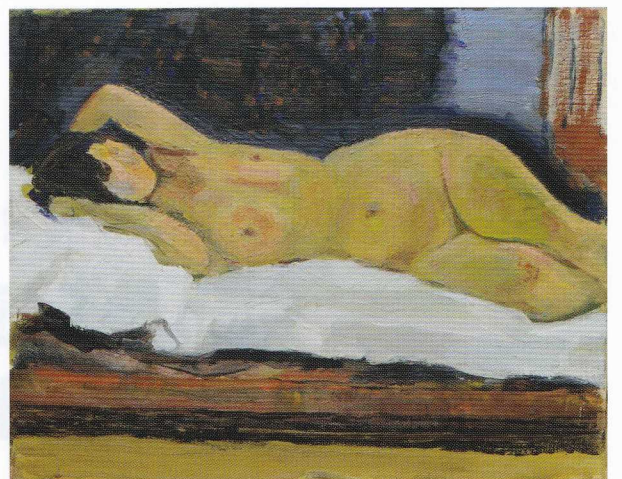
百日草 油彩画



夏の池亭 油彩画 昭和52年



礼拝堂のある家 油彩画 昭和50年



横たわる裸婦 油彩画

※このチラシは2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり128円です。